

鹿島灘～九十九里における チョウセンハマグリ浮遊幼生の分布

水産土木工学部

研究の背景・目的

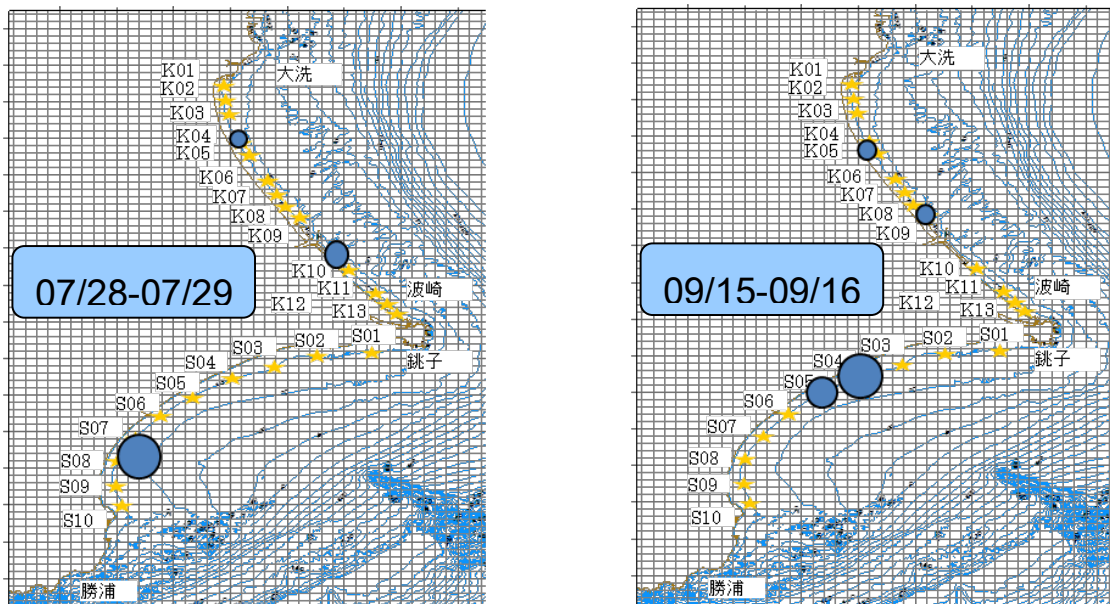
鹿島灘・九十九里はわが国最大のチョウセンハマグリ産地であるが、鹿島灘の漁獲量は1993年の1750トン以降は減少し、2010年には200トンに落ち込んだ。チョウセンハマグリ浮遊幼生の分布や量を把握するため、所属調査船たか丸で7月～9月に5回の浮遊幼生採取を実施し、瀬戸内海区水産研究所開発の種特異的DNA配列を指標とした分子生物学的手法を用いた浮遊幼生の検出を試みた。

研究成果

チョウセンハマグリおよびカキ・イワガキ・アサリ・アカガイの浮遊幼生の検出を同時に行うことができた。チョウセンハマグリは鹿島灘・九十九里の両方で検出されたが、検出されたDNA量はきわめて微量で、他の二枚貝種での検出量の1/10～1/100であった。そのため、チョウセンハマグリ浮遊幼生の量の比較には慎重な検討が必要である。

波及効果

チョウセンハマグリおよび他の水産有用二枚貝類の生活史の中で重要な時期である浮遊幼生期における移動・分散について実証的な調査を進めることが可能となる。



鹿島灘～九十九里におけるチョウセンハマグリ浮遊幼生の分布例。

他に07/26-07/27と07/31-08/01とは九十九里のみ検出、09/30-10/01は未検出。

(生物環境グループ: 宇田川徹、水産基盤グループ: 八木宏、部長: 中山哲巖)